

歴史のふるさと須賀川

東洋一の牡丹園を誇りとする須賀川市は、豊かな自然と史跡に富んだまちです。本市には、先人の遺した生活や文化の痕跡が各地に見られます。豊かな歴史は、今も須賀川市民に脈々と受け継がれており、その姿が、市内至る所に見受けられます。

★国・県・市別指定文化財名称コーナー②

- 文化財は国・県・市別に指定してあります。
- その種別を色分けしてあります。
- ①・②等の番号は、地図中の番号と同じです。

◇文化財を写真で紹介するコーナー

実際にみることは違いますが、大体の様子は把握できるのではないのでしょうか。文化財の中には、個人所有のものもありますので、写真でしかみることのできない作品もあります。

△文化財所在地の近辺地図コーナー

須賀川市文化財マップの文化財所在地近辺を拡大した略図です。所在地の近くにきましたら、この略図をご覧ください。なお、図中の記号について、下記のような省略表示がしてあります。

- ①～文化財の番号と一致
- ⊖～バス停留所名
- GS～ガソリンスタンド
- ～農道等細い道
- R118～国道118号線
- R118B～国道118号線バイパス
- ⊙～学校
- {}～区間省略
- ～登山道
- R4～国道4号線
- ⊞～鉄道

国 宇津峰

①



宇津峰は、標高約677mの阿武隈山系に属する独立峰で、山頂からは県南部が一望できます。この山には今から約660年前の南北朝戦乱の歴史が深く刻みこまれています。宇津峰は当時南朝方の田村氏の勢力下にあったことと自然の要害として最適であったことから、奥州南朝方の要として城が築かれ、興国元年(1340)鎮守府将軍北畠顕信を吉野から迎え入れ、さらに三品宮守永親王(後醍醐天皇の孫)を奉じてここに国府と鎮守府をおいて北朝方の攻撃に備えましたが、正平8年(1353)5月、し烈な攻防戦の末、ついに宇津峰城は落城し、14年間にわたる戦いは幕を閉じたのです。

国 須賀川一里塚

②



一里塚は、今から約370年前の江戸時代に、当時の将軍徳川家康の命により全国の主要街道を改修した際築造されたものといわれています。一里塚は街道を行き来する際、距離を計る目安として、江戸日本橋を基点に一里(約4km)毎に築いたものです。須賀川の一里塚は、旧陸羽街道に残る数少ないもので、東のものは径5m、西のものは径6mあり二基相対し塚形がよく保存されている点では奥州道中唯一のものであり、日本橋から59番目のものとされています。また、当時塚の上には榎が植えられていたと伝えられ、街道を行き来する人たちが木陰で一休みする場としても利用されていたと考えられます。塚のある旧国道の両側には、かつて見事な松並木がありましたが、現在は数本を残すだけとなっております。